

5. 収容期間中の管理ケア

猫は、犬以上にストレスを感じやすい動物です。譲渡までの期間中、どのような環境でどのようにケアされるかで、ストレスレベルは変化します。ストレスがかかれば、感染症にもかかりやすくなりますし、情緒も不安定になり、問題行動の原因にもなります。譲渡に適した「心身ともに健康な猫」になるように、飼養管理を工夫しましょう。

ステンレスケージの住環境

① トイレ

譲渡先でもっとも困るのは「トイレができない猫」です。施設にいる間からトイレボックスをケージに入れておけば、多くの場合自ら覚えますので、必ず入れておきましょう。トイレの砂を購入する予算がなければ、新聞紙を引き裂いたもので代用できます。またトイレボックスも安価な台所用水切りかごで代用できます。

② 段差

猫はその習性から、上下運動を好む動物です。2段ケージや3段ケージで管理できれば欲求を満たすことができますが、それが無理な場合は、通常のステンレスケージの扉部分にキッチンラックをかけるだけで段差ができ、子猫はその上に登ったり降りたりして、楽しく運動ができます。キッチンラックは安価に購入できますし、消毒も簡単です。

③ 水

水用の食器は、毎日消毒しましょう。



④ ゴムマット

ステンレスのスノコの上に敷いておけばより快適です。ここで使っているゴムマットは安価なものですが、ゴムなので消毒が簡単であること、またパンチングがあいているので、排泄の失敗があっても下にそのまま流れるなど、使い勝手が良いものです。

⑤ ペットヒーター

子猫にとって体温の低下は、命の危険にもつながります。子猫の部屋自体に暖房を入れる余裕がないような場合は特にペット用のヒーターを入れてあげるとよいでしょう。ヒーターの上にタオルなどをかけて使用しましょう。

⑥ タオル

子猫の寝床としてタオルをいれましょう。保温だけでなく安心感も与えます。使用するタオルは清潔を心がけ、毎日消毒・洗濯を行い、他の猫（特に子猫）が使用する場合は、必ず取り換えましょう。

⑦ 爪とぎ

爪とぎは猫の自然な習性ですが、譲渡後の家庭で、家具や建具に爪とぎをされると問題になります。専用の「爪とぎ」をケージの中に入れておけば、ここで爪をとぐことを覚えます。市販の爪とぎを購入してもいいですが、予算の問題や感染症予防のためには、使い回しを避けたいという場合には、段ボールで手作りすることもできます。

隠れ場所

猫は本来臆病な動物です。不安を感じたときに身を隠す場所があると、精神的にも落ち着きやすくなります。

ダンボールなどで猫が隠れる場所を作るのもいいでしょう。



ストレスをかけないケアの工夫

抱き方

子猫を抱くときには、猫がリラックスできるようなかたちで、やさしく抱きましょう。ケージを移動させるときや、医療を行う際の扱い方もやさしくするように心がけましょう。乱暴な扱いをされると、子猫は人間を怖がるようになります。



①胸とおしりをおさえ、しっかり抱きましょう

②首筋を持つときも、必ずおしりをキープしましょう。

騒音

ケージの掃除や、ケージの開け閉めの際には、なるべく大きな音を立てないようにしましょう。落ち着いた静かな環境を好む猫にとっては、ステンレスケージの扉の開閉の音でも、とてもストレスになります。なるべく静かにと心がけてやりましょう。

給餌



複数でいる場合には、どの猫がどの程度食べているかを把握するために、個別の食器で与えましょう。また、ほかの猫よりも食べていない猫がいれば、ほかから離して一頭で食事をさせるようにしましょう。

プレイルーム



常にケージの狭い空間に閉じ込めているのではなく、一日に1～2回、猫が動き回れるスペースに出してあげるのもストレス解消にいいでしょう。この場合は、感染症対策を行うておくことが必要です。

複数収容



一頭の母猫から生まれた複数の子猫が持ち込まれた場合は、同じケージで収容するといいでしょう。収容期間中ずっと個別でいるよりも、一緒にいることで、精神的にも安定します。